

19. 親和動機測定尺度 要介護高齢者版の開発

-通所リハビリテーションでの活用を目指して-

○加藤 慶紀（医療法人香庸会 川口脳神経外科リハビリクリニック）

横山 広樹（学校法人 関西医科大学くずは病院）

後藤 悠太（医療法人有絃会 西大和リハビリテーション病院）

石垣 智也（旧所属 名古屋学院大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

現所属 畿央大学 健康科学部 理学療法学科）

【研究目的】

通所リハビリテーション（通所リハ）は他者と社会的接触が行え、要介護状態にある当事者同士の支援関係は健康行動（自主運動）を促進する効果的な関わりとなる。しかし、他者との社会的接触を求める親和動機には個人差があり、適用可能な対象者を選定する手法が求められるが、要介護高齢者の親和動機を捉える評価尺度は見当たらない。本研究の目的は、既存尺度である親和動機測定尺度の要介護高齢者版を開発することである。

【研究の必要性】

超高齢社会にあるわが国の国策として、要介護高齢者の自立支援は喫緊の課題である。このためには、要介護高齢者の健康行動を促進する必要がある。通所リハは直接的なリハビリテーションサービス（理学療法や作業療法、言語療法など）の提供に加え、他者と社会的接触が行える場でもある。近年、要介護状態にある当事者同士の支援関係は自主運動をはじめとした健康行動の促進に効果的であることが明らかにされている^{1, 2}。他者の活用に着目した間接的な関わりは、通所リハにおける自立支援として活用可能性の高い方法であるが全例に有効であるとは考えにくく、適用可能な対象者を選定する手法が求められる。本研究ではこの選出手法として、他者との社会的接触を求め、調和的な人間関係や親交感を楽しもうとする傾向である親和動機に着目する。親和動機を評価できる親和動機測定尺度は「情緒的支持」，「ポジティブな刺激」，「社会的比較」，「注目」という4つの社会的報酬に基づいて構成されており、全項目26項目の設問からなる³。しかし、この尺度は大学生を対象に作成されたものであり、要介護高齢者を対象に妥当性や信頼性の検証はされていない。そのため本研究では、既存尺度である親和動機測定尺度の要介護高齢者版を開発することを目的とする。要介護高齢者版の親和動機測定尺度を開発できれば、親和動機に着目した関わりが奏功する者の特徴を捉えることができ、効率的な自立支援に寄与することができる。

【研究計画】

1. 研究デザイン

多施設横断的調査研究（便宜的サンプリング）

2. 研究対象者

- 1) 通所リハおよび通所介護を利用する 65 歳以上の者
- 2) 認知症高齢者の日常生活自立度が I または問題なし

除外基準

- 1) 本研究への参加を拒否した者
- 2) 著しい視覚，聴覚障害，精神疾患を有する者
- 3) 急性期的な医学的管理が必要な者
- 4) 終末期に該当する者または緩和医療を受けている者
- 5) 日本語を母国語としていない者
- 6) 高次脳機能障害等でアンケート回答が困難な者

3. 調査項目

- 1) 基本情報（年齢，性別，主疾患分類，うつや不安神経症などの精神疾患の有無，世帯，介護保険の負担割合）
- 2) チャールソン併存疾患指数（Charlson comorbidity index）
- 3) 身体機能（歩行自立度：Functional Ambulation Categories）
- 4) 認知機能（認知症高齢者の日常生活自立度）
- 5) ソーシャルサポート（ソーシャルサポート尺度短縮版）
- 6) 親和動機測定尺度

4. サンプルサイズ

COnsensus-based Standards for the selection of health Measurement INstruments（COSMIN）による因子分析の国際基準に基づき 210 名（26 項目×7=182 で欠損データ 30%を想定）のサンプルサイズを計画した。また再検査信頼性に関しては 16 名（有意水準 0.05，検出力 0.80 で設定し，12 名のデータが必要であった。そのうち欠損率 30%を想定したサンプルサイズを設定）のサンプルサイズを計画した。

5. 実施手順

本研究では，尺度開発の初期段階として内容的妥当性・表面的妥当性の検討と探索的因子分析（EFA）を行った。まず，要介護高齢者のリハビリテーション専門家 9 名を対象に，各項目の必須性を評価する内容妥当性比（Content Validity Ratio: CVR）と，構成概念への関連性を評価する項目レベル内容妥当性指数（Item-level Content Validity Index: I-CVI）を算出した。判定基準は， $CVR \geq 0.78$ および $I-CVI \geq 0.78$ を採用した。次に，各施設の利用者 9 名を対象に，4 段階のリッカート（1=全くわかりにくい，2=ややわかりにくい，3=ややわかりやすい，4=非常にわかりやすい）により各項目の「意味

の分かりやすさ」を評価し、表面的妥当性を確認した。平均得点が 3.0 以上の項目を原則採用し、3.0 未満の項目は他の指標も踏まえて修正または削除を検討した。

5. 統計解析

統計解析として、EFA は最尤法・プロマックス回転で実施した。因子数は原版に倣い 4 因子で検討し、因子負荷量の許容下限は ≥ 0.30 とした。独自性が高い項目ならびに共通性が低い項目は、内容的妥当性や表面的妥当性の結果と併せて逐次的に評価し、必要に応じて除外した。項目削除した後に、各因子の内的一貫性とロバスト最小二乗法による確認的因子分析にてモデルの適合度を検討した。また、一部の研究対象者には初回の評価から 14 日後に再検査を行い、級内相関係数から信頼性の検証 (ICC 1, 1) を実施した。統計解析には R (ver. 4.4.1) を用いた。

6. 倫理的配慮

本研究はヘルシンキ宣言に基づき、共同研究者が過去に在籍していた名古屋学院大学の医学研究倫理委員会（承認番号：2024-22）と研究責任者が所属する施設の倫理審査委員会（承認番号：K-24）の承認を得て実施した。

【実施内容・結果】

本研究は、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 6 月まで調査を実施し、214 名の同意を得た後に、精神疾患の診断がある者、65 歳未満の者、認知症高齢者自立度 I 未満の者を除外基準に基づき除外し、最終的に 183 名を解析対象とした。対象者の基本情報は表 1 に示す

表 1 対象者の基本情報

項目	全体 (n=183)
年齢, 歳	80.3 (6.6)
女性, 名 (%)	104 (56.8%)
主疾患分類, 名 (%)	
脳血管疾患	43 (23.5%)
運動器疾患	86 (47.0%)
神経筋疾患	21 (11.5%)
脊髄疾患	10 (5.5%)
心疾患	3 (1.6%)
呼吸器疾患	2 (1.1%)
自己免疫疾患	2 (1.1%)
悪性腫瘍	3 (1.6%)
その他	13 (7.1%)
要介護度, 名 (%)	
要支援1	35 (19.1%)
要支援2	68 (37.2%)
要介護1	29 (15.8%)
要介護2	32 (17.5%)
要介護3	10 (5.5%)
要介護4	7 (3.8%)
要介護5	2 (1.1%)
同居人数, 名 (%)	
独居	57 (31.1%)
自己負担割合, 名 (%)	
1割/2割/3割	165 (90.2%)/10 (5.5%)/8 (4.4%)
CCI	0 [0-2]
FAC, 名 (%)	
0/1/2/3/4/5	3 (1.6)/9 (4.9) /6 (3.3) /10 (5.5) / 67 (36.6)/ 88 (48.1)
ソーシャルサポート尺度短縮版, 点	38 [31-44]
FAC, 名 (%)	
0/1/2/3/4/5	3 (1.6)/9 (4.9) /6 (3.3) /10 (5.5) / 67 (36.6)/ 88 (48.1)
親和動機測定尺度, 点	
合計点	88 [76-99]
注意	25 [21-28]
情緒的サポート	24 [20-27]
ポジティブな刺激	24 [21-27]
社会的比較	16 [13-18]

中央値〔第一四分位数-第三四分位数〕

Charlson comorbidity index ; CCI, Functional Ambulation Categories ; FAC

原版 26 項目について、CVR と I-CVI、表面的妥当性、および EFA の結果を統合し、基準を満たさない 7 項目を削除した。そして最終的に 19 項目が採用し、4 つの因子構造が抽出された (表 2)。抽出された因子は、それぞれ「承認・共感支援志向」(7 項目)、「ポジティブ刺激志向」(5 項目)、「情緒的支援志向」(4 項目)、「共感的親密志向」(3 項目)と命名した。

表 2 19 項目の要介護高齢者版の親和動機測定尺度

各項目	所属する因子名
1. 物事がうまくいかない時、人と一緒にいることが一番の慰めになる。	情緒的支援志向
2. 人と一緒にいることですばらしいのは、自分が活気に満ちて生き生きとするからである。	ポジティブ刺激志向
3. 何か悪いことがあったり、壁にぶち当たった時はいつでも、親しく、信頼できる友と一緒にいたい。	情緒的支援志向
4. 私は、他者と触れあうことによって人並以上に満足がえられる。	ポジティブ刺激志向
5. 自分にとってとても大切なことがうまくできなかったとき、人と一緒にいることで気持ちがまぎれる。	情緒的支援志向
6. 色々な人と一緒にいて、その人たちについて知ることは興味深い。	ポジティブ刺激志向
7. 私は、他者と一緒にいることで多くの人が感じる以上に満足がえられる。	ポジティブ刺激志向
8. 人と親密になれているとき、何か重要なことを成し遂げたような気がする。	ポジティブ刺激志向
9. 何が起きているのか解らないとき、自分と同じ経験をしている人と一緒にいたい。	共感的親密志向
10. つらいことをしなければならないとき、誰かが一緒にいてくれることが救いとなる。	承認・共感支援志向
11. 私らしさや私のすることに共感してくれる人のそばにいたいと思う	承認・共感支援志向
12. 悲しいときや落ち込んでいるとき、自分の周囲にいる人に慰めてもらおうとする。	情緒的支援志向
13. 私の存在価値を認め、大切に思ってくれる人のそばにいたい。	承認・共感支援志向
14. 2、3人の人と非常に親密な友情をもてれば、満足である。	承認・共感支援志向
15. 周りの人が私の存在に気づき、私らしさを認めてくれたらいいと思う。	承認・共感支援志向
16. 私をあまり肯定してくれない人と一緒にいたくない。	承認・共感支援志向
17. 気持ちが動転して (混乱して) いるとき、誰かにそばにいて欲しい。	承認・共感支援志向
18. 人のそばにいて、話を聞いたり、一対一の親しい関係をもつことが、私の楽しみである。	共感的親密志向
19. 人を見ていたり、人を理解したりすることは楽しみの一つである。	共感的親密志向

内的一貫性として、各因子の Cronbach's α を算出した。「承認・共感支援志向」は Cronbach's $\alpha=0.874$, 「ポジティブ刺激志向」は Cronbach's $\alpha=0.847$, 「情緒的支援志向」は Cronbach's $\alpha=0.79$, 「共感的親密志向」は Cronbach's $\alpha=0.726$ であった。その後、確認的因子分析をロバスト最小二乗法にて実施し、CFI = 0.992, TLI = 0.991, RMSEA=0.055 (90%CI : 0.041-0.069) と良的な適合を示した。再検査信頼性は、4 施設の計 16 名の研究対象者に実施し、ICC (1, 1)=0.95 (95%信頼区間 : 0.85-0.98) となった。

【考察と今後の課題】

本研究では、要介護高齢者を対象とする親和動機測定尺度の妥当性と信頼性を確認し、19 項目、4 因子から成る実用的な尺度を開発した。本尺度は、他者との関わりを介した支援が効果を発揮しやすい対象者の同定に資するだけでなく、通所リハにおける集団活動やピアサポートを活用した自立支援プログラムの設計・最適化にも寄与し得る可能性がある。今後の課題としては、本尺度に基づく対象者選定と介入のマッチングが実際の集団プログラムで有効かを、事例報告で検証した後に、段階的に前向き介入研究により検証していく必要がある。

【参考文献】

- 1) Takeda H, Takatori K. Effect of buddy-style intervention on exercise adherence in community-dwelling disabled older adults: A pilot randomized controlled trial. Clinical Rehabilitation. 2021;36(3): 379-387
- 2) Takeda H, Takatori K. The effect of a buddy-style intervention on physical activity in community-dwelling older adults with disabilities: A 24-week follow-up of a randomized controlled trial. Clinical Rehabilitation. 2022; 36(12):1590-1600.
- 3) 岡島 京子, 親和動機測定尺度の作成, 日本教育心理学会総会発表論文集, 1988: 30(30); 864-865.

【経費使途明細】

使 途	金 額
調査, データ入力, 管理作業の協力者への謝礼 (ギフトカード: 56 名×2,000 円, 56 名×1,040 円, 20 名×330 円)	176,840 円
調査対象者への謝礼(ギフトカード: 188 名×530 円)	99,640 円
ギフトカード郵送費 (合計 13 施設に 5 回に分けて郵送)	21,100 円
ギフトカード消費税	2,110 円
ギフトカード代金振り込み手数料	440 円
合 計	300,130 円
大同生命厚生事業団助成金	300,000 円